



中研レポート No.18 (年2回発行)

平成29年1月



発行 自動車安全運転センター 安全運転中央研修所

安全運転管理課程の紹介

安全運転管理者、副安全運転管理者、これらになろうとする方及び運行管理者を対象に4日間と5日間の研修があります。どちらの研修も法令に定める業務基準、討論技法のほか、運転適性検査を活用した個別安全指導技法、運転実技指導等について学ぶことができ、更に5日間課程では運転適性検査資格者証取得のための特別研修を行いますので、資格取得により、自ら従業員等に対して個別継続的な指導が可能となります。(運転適性検査資格を取得するには、「運転適性検査(73-1)」の検査を受検し、判定値の基準に達する必要があります。)



【理論研修(運転適性検査法)】

運転適性検査の指導者としての資格を得るために実施要領、指導方法、留意事項について学びます。



【スキッドと車両の限界】

車両の性能の限界を超えた時の挙動変化を体験し、危険に近づかない運転方法を学びます。



【危険回避と人間の限界】

危険な状態を運転操作で回避することが困難なことを体験して、危険に近づかない運転行動の重要性を学びます。



【危険予測と運転行動】

予期しない危険を運転操作で回避することができないことを体験し、危険予測の重要性を学びます。

安全運転管理課程では、高度な理論研修と実践的な実技研修の組み合わせによる管理能力向上のための総合的なカリキュラムを組んでいます。

理論研修では、安全運転管理者に関する基本理念を学び、安全確保のための認識を深めるとともに安全運転管理の具体的手法を学ぶ研修や安全運転管理者に与えられている社会的使命の重要性と法令に定める業務基準について学ぶ研修があります。

実技研修では、日常点検から基本走行、スキッド走行、ブレーキング等多様なコースを利用した走行研修が行われます。実際の危険場面に近い状況を体験することで、運転操作で危険を回避することの限界を体験し、余裕ある運転の重要性を学ぶ研修や危険を予測できる運転を学ぶ研修があります。

事故を起こせば本人だけでなく事業所にも経済的な損失や社会的な信用失墜など様々なダメージを与えます。しかし、事故を起こすドライバーの多くは危険行動を誘発する心理的な特徴が見られることから、ドライバーの運転適性を早期に把握し、事故防止に努めることで、事故による支出経費が削減され、間接的に利益を上げることに繋がるのです。

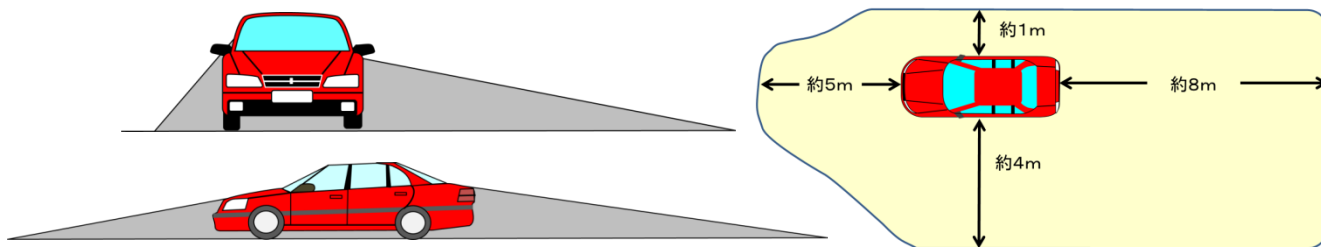
職場における安全運転管理の方法の1つとして、是非「安全運転管理課程」をご利用下さい。

見える場所と見えない場所「死角と安全確認」

運転中は、様々な交通状況を単に「目で見える」だけでなく「意識を持って観る」ことが必要です。情報をできるだけ早く、広く、正確に取り、その情報を適切に判断し、正確に操作することが、運転の基本です。研修を通じて、正しい情報の取り方を学ぶとともに、自車の存在を他車に知らせるための運転法を学びましょう。

○ 車の死角

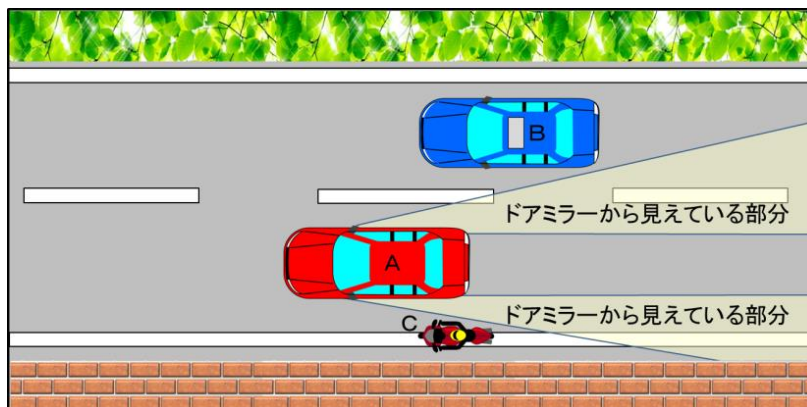
運転者が自動車の運転席に座り周囲を見渡すと、運転者の目には見えない部分がたくさんあります。これを車体がもたらす死角といい、これは車種やドライバーの身長、乗車姿勢などにより異なりますが、一般的に普通乗用車の周囲には下図のような死角が存在します。



○ ミラーの死角

① 見る行動

A車のドアミラーにB車とCの二輪車は映っていません。しかし首を左右に動かして見ることでCの二輪車や横のレーンを並進するB車の存在を発見することができます。このように進路を変える時や右左折する時、または路端に停止する時などは、特に注意が必要で、ミラーだけに頼った運転行動では思わぬ事故に遭います。運転行動を変える前には、ミラーの活用とともに自分の目で直接観る（目視）安全確認を必ず行いましょう。



また、A車が運転行動を変更する場合には、方向指示器などによる情報発信をできるだけ早く行い、自分の運転行動を早く相手に知らせることが大切です。

② 見られる工夫

B車にも「自分はA車のドアミラーの死角に入って走行していないか？」という気持ちが大切です。自分の存在を知らしめるために、死角の位置を避けてA車より前方、または後方を走行し、この危険な位置に入らないことが必要です。

また、二輪車においても、四輪車と並進して走行し、四輪車に巻き込まれてしまう事故もよくあります。二輪車で走行中は、四輪車の運転者から自分が見える位置を走行し、並進は避けましょう。このように危険な位置に入り込んでいる時は速度の調節により、前方に出たり後方に下がることにより、危険な位置から早く脱出するようにしましょう。

セーフティポイント

- ① 死角の存在を意識して、積極的に観る行動を習慣化する。
- ② 自車の行動を周囲に知らせるため、早めの合図で習慣化する。
- ③ 周囲の車の死角を避け、相手から見られやすい位置を走行する。
- ④ 自車の存在を周囲に気づかせるため、早めにライトを点灯する。

新設・改定課程の紹介

○ 道路交通法改正（平成29年3月12日施行）への対応

(1) 概要

道路交通法改正による準中型免許新設に対応する教習指導員課程、技能検定員課程及び届出教習所指導員課程を新設し、また高齢者講習に双方型講義や個人指導が導入されることから、それらに対応する高齢者講習指導員として必要なカリキュラムの改定を行いました。

(2) 新設課程

- ・新任教習指導員課程（準中型）（5日） 118,400円
- ・新任技能検定員課程（準中型）（4日） 92,900円
- ・届出教習所指導員課程（準中型）（4日） 93,500円

(3) 改定課程

- ・高齢者講習指導員課程（2日） 50,700円（-1,700円）
- ・高齢者講習指導員課程（3日） 73,700円（-6,900円）
- ・運転適性講習指導員課程（7日） 185,900円（+8,900円）
- ・新任運転適性指導員課程（11日） 282,000円（+20,800円）



○ ニーズへの対応

(1) 概要

企業等からの要望にお応えし、運転適性検査の実施等カリキュラムの改定を行いました。

(2) 改定課程

- ・貨物自動車運転者課程（大型）（4日） 103,000円（+1,200円）
- ・貨物自動車運転者課程（普通）（4日） 82,900円（+1,200円）
- ・旅客自動車（バス）運転者課程（4日） 114,900円（+11,600円）
- ・旅客自動車（バス）運転者課程（2日） 50,200円（料金変更なし）
- ・特定業務運転者課程（普通）（3日） 53,800円（料金変更なし）



○ 運用開始日

平成29年4月1日から

平成28年中の主な行事

安全運転中央研修所では、安全運転研修のほか、全国規模の安全運転競技大会等も開催されています。平成28年中の主な行事を紹介します。

【第19回SDAセーフティコンテスト】



9月10日（土）、「第19回SDAセーフティコンテスト」が開催され、各社から選抜された選手による熱戦が繰り広げられました。

【第47回全国白バイ安全運転競技大会】



10月8日（土）・9日（日）、「第47回全国白バイ安全運転競技大会」が開催され、第1部で神奈川県警察、第2部では熊本県警察がそれぞれ連覇を達成しました。

【第48回トラックドライバー・コンテスト】



10月22日（土）・23日（日）、「第48回トラックドライバー・コンテスト」が開催されました。スラローム（前進）競技の様です。

【バイクナビ・グランプリ2016】



5月22日（日）、11月27日（日）、「バイクナビ・グランプリ2016」が開催されました。約400人の自転車愛好家が中研を自転車で駆け抜けました。

教官コーナー

時田 智 実技教官

(東京都 平和橋自動車教習所から出向)

中央研修所の教官として2年半がたちました。全国から多くの方に研修を受けに来ていただいているのですが、毎回、研修内容をわかりやすく伝えることの難しさを考えさせられます。反省する日々ですが、「とても楽しく学ぶことができました」と、いっていただけた時はとてもやりがいを感じます。その言葉を励みにし、出会いを大切に残りの任期を全力で取り組んでいきたいと思えます。



山田 晴男 実技教官

(茨城県警察からの出向)

出向3年目も間もなく終わろうとしています。思い返せばいろいろとありました。私の仕事は、職員皆さんの努力の結果、集まった人たちに伝える役割です。全職員が運転者に何かを伝えるために、それぞれの役割を果たしています。皆さんへの感謝と思いをのせて、残りわずかですが頑張ってます。



※右側が筆者

増田 栄 実技教官

(警視庁から出向)

自動車安全運転センターに出向して早くも3年目となりました。

研修生の皆さんには、安全に危険を体験してもらい、安全運転について考えてもらうことの難しさを感じながら研修を行っています。

これからも一期一会を大切に、研修生の皆さんの心に響く研修ができるように自己研鑽に励みながら、日々全力で取り組んでいく覚悟です。



末津 直樹 実技教官

(北海道警察からの出向)

中央研修所の教官として三年目となりました。

教官という立場ながらも、日々の研修において研修生の方々と、同僚の皆さんから学ばせていただくことばかりで、本当に貴重な三年間を経験させていただいたと、感謝しております。

残された任期はあと半年もありませんが、よりよい仕事ができるように精一杯がんばります。



林 郁雄 実技教官

(広島県警察からの出向)

写真は、本年10月に行われた全国白バイ安全運転競技会のモトクロス会場にて、当日早朝にモトクロス担当教官と一緒に撮ったものです。…若干疲れ気味？ちょっと笑顔がひきつってます。

研修はもちろんですが、白バイ大会やトラック大会等、様々な行事に携わらせていただいて感じるのは、受け手の立場に立って考えることがいかに大切かということです。

教官としての任期もあとわずかですが、最後まで全力で取り組んでいきます！！

